



野鳥の 不思議解明 最前線 #105 文 植田睦之

© Japan Bird Research Association, 2014

モズの巣を占領したカッコウのヒナ。日本のカッコウのヒナの臭いはどうなんでしょう？ 撮影●笠原里恵

クサイ体臭は私の誇り

～ 体臭で捕食を避けるマダラカンムリカッコウのヒナ ～

暑くなってきました。電車に乗ると「参りました」と平伏したくなるほどの体臭をまき散らしている人に遭遇する季節です。他人事のように言いましたが、ばくも先日、自動車の車内がクサイなあと思ったら、自分のTシャツの臭いだったことがあったので、他人にはそう思われているのかもしれませんが。

この悪臭、悪いことばかりではありません。ロシアの知り合いに○ブコフさんという人がいますが、彼はすごい体臭のおかげで、蚊をよせつけません。こちらが「痒い痒い」となっているのに、彼は涼しい顔。きれい好きになってしまった世の中にはマッチしないかもしれませんが、少なくとも蚊の多いロシアの地では体臭は適応的な形質なのでしょう。

クサイ体臭が適応的な種。鳥にもいます。それはマダラカンムリカッコウ *Clamator glandarius* です。このカッコウのヒナは酸、インドール、フェノールや数種の硫黄含有化合物を主成分とする物質を分泌しているそうです。そしてこの物質をネコや猛禽類が嫌がるので、捕食を避けられるそうです。

マダラカンムリカッコウも日本のカッコウと同様に、托卵して他種に子を育てさせる鳥です。カッコウ類に托卵されると、托卵された鳥は被害を被ります。マダラカンムリカッコウはハシボソガラスの巣に托卵し、ヒナはハシボソガラスのヒナたちと一緒に育ちます。そのため、すべてのヒナを放り出し巣を独占する日本のカッコウとモズやオオヨシキリの関係ほどの悪影響はハシボソガラスに与えないもの

の、本来ハシボソガラスのヒナに渡るはずの食物をマダラカッコウのヒナが食べてしまうことで、ハシボソガラスの繁殖成功率は落ちてしまいます。

しかし、Canestrariさんたちの研究によるとマダラカンムリカッコウが「クサイ」ことにより、托卵を受けるハシボソガラスにとっても良いことがあるようです。カッコウの臭いで捕食率が下がるからです。Canestrariさんは、ハシボソガラスの巣にカッコウのヒナを足したり、逆にカッコウに托卵されたハシボソガラスの巣からカッコウを除去する実験をしました。すると、もともといたか、人により追加されたかに係わらず、カッコウのヒナのいる巣では6-7割の巣が繁殖に成功したのに対して、カッコウのヒナのいない巣では4割程度しか成功しないことがわかりました。捕食される機会が多い場合では給餌を奪われるデメリットよりも捕食を避けられるメリットが上回ることがあるようです。

でも捕食者が嫌がるほどの臭いのカッコウのヒナと一緒に暮らさなければならぬハシボソガラスのヒナは大変そうです。成長が悪くなったりといったデメリットはないのかな？

紹介した論文

Canestrari D., Bolopo, D., Turlings, T.C.J., Röder, G., Marcos, J.M. & Baglione, V. (2014) From parasitism to mutualism: unexpected interactions between a cuckoo and its host. *Science* 343: 1350-1352.